

27年1月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
仕入 動向	国産材製材品	△ 50.0	△ 25.0	△ 31.3
	外材製材品	△ 56.3	△ 37.5	△ 25.0
	構造用集成材	△ 28.6	7.1	△ 7.1
消費 動向	国産材製材品	△ 50.0	△ 37.5	△ 37.5
	外材製材品	△ 56.3	△ 50.0	△ 37.5
	構造用集成材	△ 28.6	△ 7.1	△ 21.4
在庫 動向	国産材製材品	△ 31.3	△ 12.5	△ 12.5
	外材製材品	△ 37.5	△ 25.0	△ 25.0
	構造用集成材	△ 21.4	0.0	0.0

・国産材及び外材製材品の仕入れは3ヵ月連続して減少、構造用集成材は1月減少、2月増加、3月減少。

・プレカット加工用部材の消費はどの品目も3ヵ月連続して減少。

・国産材および外材製材品の在庫は3ヵ月連続して減少、構造用は1月が減少、2月、3月は横ばい。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
受注	△ 37.5	△ 31.3	△ 6.3
加工	△ 37.5	△ 37.5	△ 25.0
受注残	△ 31.3	△ 31.3	△ 18.8

・受注、加工及び受注残は共に3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・国産材仕入は減少、大型合板工場の稼働間近、外材製材品は先の値上がりに対し先物オーダーで対応。消費は春需に向けて準備中。在庫は一年間で一番少ない時期。
- ・為替の動きが激しい、仕入のタイミングに要注意、消費は力強くないが引き続きコンスタントな動き、在庫は決算も考慮し、展示会の売り出しも考え仕入ボリュームをアップする。
- ・為替の関係で外材が値上がっている。受注減で消費減少。

(受注動向)

- ・受注量増えず、加工量最少。
- ・ある程度のボリュームは確保しているが、先々が心細い。
- ・年明け後の受注が減ってきている。